

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
Q202	ホスピタリティ産業論	2年	講義	2	岩本英和
<b>授業概要</b> 本授業では、ホスピタリティ産業の概要を学ぶことを目的とします。まず、観光学の枠組みを理解するために観光の定義、観光政策を説明します。学問領域として、マーケティングの視点からホスピタリティ産業を学ぶため、観光マーケティングの基礎知識も同時進行に解説を行います。また、観光学への理解を促進するために授業ごとに観光に関わるキーワードを紹介し、観光用語を学びます。					
<b>到達目標(学習の成果)</b> 本授業では、ホスピタリティ産業の現状、ホスピタリティ・マーケティングの基礎知識やホスピタリティ産業の特徴を捉えることを到達目標とします。事例を通して、ホスピタリティ産業とマーケティングの関係性を学びます。近年、日本を訪れる外国人観光客数は増加傾向にあり、観光(インバウンド)への関心が高まっています。そのため、本授業では、ホスピタリティ産業論を学び、社会に対する幅広い関心と知識を有し、多様な人々とコミュニケーションを取りうる能力を養うことの一助になるよう努めます。(DP3)					
<b>授業計画</b>					
回	表題	学修内容			
1	観光を学ぶ意義	観光の定義を紹介し、意義と役割を学ぶ			
2	観光の様々な効果	観光がもたらす効果(経済的効果、社会的効果、文化的効果)について学ぶ			
3	観光とホスピタリティの語源と歴史	観光の語源から観光がどのように発展してきたのかを学ぶ			
4	観光とホスピタリティを構成する要素	ホスピタリティ産業の視点から「観光者」「観光対象」「観光者と観光対象を結ぶモノやコト」を学ぶ			
5	ホスピタリティに関連する観光資源	ホスピタリティ産業に関連する観光資源の具体例を学ぶ			
6	観光産業とは	様々な観光産業とホスピタリティの関係性を解説する			
7	ホスピタリティ産業(宿泊業)	宿泊産業の歴史と発展の経緯を見て、ホスピタリティ産業論の形成過程を学ぶ			
8	ホスピタリティ産業(宿泊業)	客室サービスについて学び、宿泊業の実務内容について知る			
9	おもてなしとは	宿泊業での「おもてなし」とは何か、そして作法について学ぶ			
10	ホスピタリティ産業(飲食業)	飲食業の歴史と発展の経緯を見て、ホスピタリティ産業論の形成過程を学ぶ			
11	ホスピタリティ産業(飲食業)	料飲部門の組織概要やレストラン業務について知る			
12	ホスピタリティ産業(運輸業)	日本における航空輸送事業の歴史を学ぶ			
13	ホスピタリティ産業(運輸業)	日本航空をめぐる現在の動向を学ぶ。そして、航空各社の経営戦略を紹介する			
14	ホスピタリティ産業(旅行業)	旅行会社を紹介し、旅行会社が提供すること、旅行会社が扱い商品について紹介する			
15	ホスピタリティ産業(旅行業)	ホスピタリティ産業論で学んだことを駆使して、各自旅行計画を作成			

準備学修(授業外の自己学修)

昨今、ホスピタリティという言葉がしばしば使われるようになりました。事前の準備学習として、ホスピタリティという言葉インターネットで検索していただきたいと思います。ホスピタリティという言葉がどのような分野で使われているのかが想像できると思います。

成績評価の方法・基準(%表記)

ワークシート:20%

講義内での発表:20%

学期末試験:30%

授業への取組(出席、発言、授業態度等):30%で成績を評価する。

※学期末試験前には全体のまとめを入念に行います。

観点	S	A	B	C
観光に関する基礎知識についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
ホスピタリティ産業の現状に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
ホスピタリティ産業の今後の動向に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

授業ごとにパワーポイントによるプレゼン資料や配布資料を用いるため、教科書は使用しません。毎回授業では、ワークシートを行い、授業の理解力を高めます。

参考書等

宍戸学共著『観光概論 第9版』JTB 総合研究所済社

履修上の注意・学修支援

質問があれば、授業前・授業後に対応します。

それ以外は、メール(h.iwamoto1221@gmail.com)で対応します。